



# さくら並木だより

第1号

発行：相模原市  
平成23年  
3月

## 第1回検討会を開催いたしました。

本市では、昨年の9月に市道相模原横山で発生しました倒木事故を契機に市役所周辺の桜並木の維持管理の在り方について、学識経験者や市民の皆様からご意見を伺う検討会の設置を進めてきましたが、このたび、第1回検討会を1月27日(木)に開催することができました。

検討会は、大学教授、樹木医及び地区自治会連合会長等13名で構成され、今回は街路樹診断の方法や今後の予定等についてご説明し、また、昨年の倒木事故を受けて、市が実施してきた市道相模原横山の街路樹診断結果に基づき8本の街路樹の伐採が必要である旨を報告し、事前の周知方法やその後の対応等について意見交換を行いました。

## さくら並木だより（第1号）を発行いたします。

今後、検討会において平成22年度から23年度にわたって、若木への更新方法を含めた維持管理の在り方等の検討を進めてまいります。そこでの検討内容等については、この「さくら並木だより」を通して皆様に報告し、皆様からいろいろなご意見等も伺いたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



左：満開の桜



右：春が待ち遠しい冬木立の桜並木

## 市道市役所前通の桜を診断しています。

桜並木の健康診断とも言ふべき街路樹診断を実施しています。当路線については、平成20年度に街路樹診断を実施しておりますが、再度、その結果を踏まえ、樹木医による精密診断等を実施しています。実際の作業は、観察や機器計測を行いながら記録や写真を撮ることです。なお、診断結果の概要については改めてこの紙面で報告する予定です。

## 街路樹診断とは

街路樹は、舗装内の狭く厳しい土壌環境で生育しているうえ、排気ガス・踏圧・交通事故・病虫害などの影響を強く受けます。そのため活力が著しく衰退したり、健全に見えながらも材質腐朽病によって幹や根が腐朽し倒木や枝折れを起こしたりすることもあります。そうした場合、樹木のもつ快適性や景観性など多様な働きを果たせないばかりか、倒木や幹折れなどによって、道路交通や周辺にお住まいの方等に大きな被害を発生させる恐れもあります。街路樹診断では、樹木の健康診断として、樹木の活力や顕著な衰退、幹や根系の腐朽などを早期に発見し、道路の安全性・快適性などを確保いたします。そして、そのデータは、街路樹の保全方法や適切な処置の検討のための基礎資料となります。

## 診断の方法

一般的に街路樹診断は「点検」や「外観診断」、及び「精密診断」の二段階に分けて行います。点検や外観診断は、木槌・鋼棒・根堀など簡易な道具を使用し、観察による診断を行うことで、精密診断が必要な樹木を抽出することにもなります。精密診断は、点検や外観診断では明確にできない樹体内部の状態について機器診断を実施することです。精密診断は、点検や外観診断の後に行います。

- ① 街路樹ごとに仮ナンバーを取付けます。
- ② 樹高・葉張り・幹周などを計測記録します。
- ③ 写真撮影をします。
- ④ 点検・外観診断を行いカルテに記録します。
- ⑤ 精密診断機器を使用して、内部の腐朽や空洞を計測します。



材質腐朽菌ベッコウタケ



上左：点検や外観診断の道具

上右：外観診断等の実施風景

下左：精密診断の実施風景

下右：精密診断の道具

(貫入抵抗測定機器)